

# 『仏陀（ブツダ）最後の旅』

霊鷲山（りょうじゆせん）はインドのビハール州のほぼ中央に位置する山です。仏陀（ブツダ）（釈迦佛）が無量寿経や法華経を説いたとされる場所です。人生の旅路の最後で、人は、老いや死と、どの様に向き合えば良いのでしょうか。

およそ2500年前、その問いに一つの答えを出した人が居ます

その人の名は、ゴータマ・シッタールダ。（パーリ語形。釈迦。仏教の開祖）。人々からは目覚めた人・仏陀（ブツダ）と呼ばれました。

生きること、老いること、病（やまい）、そして死。人生は苦しみに満ちていきます。

仏陀（ブツダ）は、その苦しみと、「共に生きること」を説き続けました。（キリスト教は「人は生まれながらに原罪がある・救って貰う」とは違うようです）

れながらに原罪がある・救って貰う」とは違うようです）

仏陀（ブツダ）が80歳を迎える頃に、この霊鷲山に滞在していた仏陀（ブツダ）は、そこから山を降りて、そして、大変困難な旅、ガンジスを超えて、北へ北上するという、6ヶ月・数百キロにおよぶ旅に出発する訳です。

そして、その最初の出発点がこの霊鷲山、一体、仏陀（ブツダ）が80歳になつて何を感じ、何を求めて、困難な旅に出たのでしょうか。

最初の動機は何だったのだろうかかと勝手に想像するんですが、人間というものは、ある時期に達すると、自分の人生というものを振り返ってみながら、そして、その自分の人生の締めくくりという様なことを否でも応でも感じない訳にはいかない訳だと思えます。

悟りを開いて45年。常に布教・伝道の旅にあった仏陀（ブツダ）。

80歳で、ここ霊鷲山を立ちます。それが最後の旅になりました。

苦難に満ちた旅の中で、仏陀（ブツダ）その人は、いかに老いを受け入れ、病（やまい）に耐え、そして、どの様に死を迎えたのでしょうか。

およそ2500年前、釈迦族の王子として生まれながら、出家し、苦行のはてに悟りをひらいた仏陀（ブツダ）。

その教えは、時を越え、多くの人々の中に広まって行きました。

人は、何故、苦しむのか、苦しみと如何に向きあうのでしょうか。

仏教2500年の歩みは、その問いかけの歴史でもありました。

21世紀を迎えた今も、人々は変わらず多くの苦しみを抱いています。

その中であつて仏教は何をなし得るのでしょうか。

さまざまな伝説に彩られ、

なぞに満ちた仏陀（ブツダ）の生涯。

しかし、その晩年については克明な記録が、いくつかの経典として残されています。大般涅槃経や、ダイパリミツパーナ経。

そこには仏陀（ブツダ）の死と、最後の旅の様子が記されています。

霊鷲山から旅立つ前、仏陀（ブツダ）は弟子達を集め、悟りに至る道について次のように説きました。

「戒律と共に修行して完成された精神統一は大いなる果報をもたらし、大いなる功徳がある。」

「精神統一と共に修養された智慧は、偉大な果報をもたらし、大いなる功徳がある。」

「智慧とともに修養された心は、もろもろの汚れ、すなわち、欲望の汚れ、生存の汚れ、無明の汚れから『まったく解脱』する。」

と説かれました。

「涅槃」とは、「欲望の炎が吹き消された状態」のことです。

当初は、仏陀（ブツダ）が35才で到達された境地を単に「涅槃」と呼び、仏陀（ブツダ）が亡くなってその肉体も滅した時を「大般（だいはつ）涅槃」と呼んで区別していたそうです。

仏陀（ブツダ）は35才で悟られた後、その教えを広めるため、亡くなる直前まで、北インド地方全土を歩いてまわられました。

ある時は教えを請う者に説法をされ、またある時は人々の悩みなどを聞くということを倦むことなく続けられたのでした。

仏陀最後の旅と死に至る姿が述べられた経典として、「大パリニツパーナ経（パーリ語）」があります。

仏陀最後の旅における「教えとは何か」を人間の姿での足跡と死に至る姿をみていくことにしましょう。

その中で、死に向かう心構えなりが見つけ出せればと思います。この経は仏陀（ブツダ）の末期を誇張もなく忠実に伝えていきます。

これを読んでも、仏陀（ブツダ）は、信仰を強調したり、自分の正当性を誇張したり、教祖的に大言壮語したりするような方ではなく、ただ「真理」という一条の光に向かつて自ら進み、また弟子たちの自覚を促し修行への熱意を奮起させるような方法をされていた方のように思えます。

仏陀（ブツダ）の最後の旅として臨終から遺骨の分配の様子までかかれたこのお経は、仏陀（ブツダ）の教えはもちろん、その人柄やまわりの雰囲気を実に伝えてくれ、あらためてその偉大さを感じざるを得ません。

『ブツダ最後の旅』として岩波文庫から出版されていますので、ぜひご覧下さい。



## 私も「さんわ」で建てました

日出店

速見郡日出町豊岡

片山 幸子様



以前より、檀家寺の掲諦寺に何かご寄付できるものはないだろうかと考えていました。

今年、亡き主人の130回忌ということもあり、まずさんわさんへ久しぶりに行ってみました。展示場に六地藏と、五尺の合掌地藏があつたので、これならお寺にぴったりだなと思ひ御住職に相談すると大変喜んでくださいました。最近お寺の周囲もきれいに整備されて、お寺の駐車場の横にお祀りすることになりました。お寺に寄贈させて頂き、とても幸せな気持ちになりました。

9月10日午前10時半より 地藏盆のお祭りをする予定です。皆様是非お詣りくださいませ。（地藏盆）

地藏盆とは、8月23日、24日に行われる、子供の無病息災を願った地藏菩薩のお祭りのことです。関西地方で盛んで、関東では見られる事が少ない風習の1つです。

## 森町店

佐賀関町

須川 様

古いお墓



新しく建立



主人が3月に亡くなり、何をしていいのかもわからず、唯 忙しい毎日が過ぎていく中、主人のお骨を入れるお墓は気になっていました。そんな中、葬儀をプリエール佐賀関でしました。担当が後藤さんでした。その後藤さんから「さんわ」さんを紹介していただきました。古いお墓は街中の徳応寺の境内地にありました。古墓の整理、お骨の掘上、そして新しいお墓となにもわからないので「さんわ」さんにすべてお願いしました。段取り良くして頂いて、先日出来上がりました。形も良く、墓石の色合いも非常に良く、本当に良かったなと思えました。初盆なのでこれで一つ気がほっとしました。工事の人にも徳応寺さんの境内地が工事中でしたので、余分にご苦労をおかけしました。なにからなまでに、お世話になりました。ありがとうございました。